

令和5年度

(令和5年8月～令和6年7月)

環境経営レポート

「環境」「社会」「経済」と関連するSDGs



令和6年9月30日

 **ワイルド化成株式会社**
WILDCHEMICALS CO., LTD.

～ 目 次 ～

環境経営方針 P.1

I. 事業の概要 P.2

II. 組織図及び認証・登録範囲 P.3

III. 環境経営目標 P.4

IV. 環境経営計画 P.5～P.6

V. 環境経営目標の実績 P.7～P.9

VI. 今年度の取組実績 P.10

VII. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画 P.11～P.12

VIII. 環境関連法規等への違反、訴訟等の有無 P.13

IX. 代表者による全体評価 P.13

環境経営方針

私たちワイルド化成は、事業活動を通じて、住設部品メーカーを中心としたモノづくり企業へ「良品の安定供給」「モノづくりの後方支援」を主業として、社会の発展・豊かな暮らしを創造することに貢献します。

また、社会の一員として、持続可能な社会を作っていくために、自社のみの成長発展ではなく、サプライパートナーの後方支援を行い、生産性向上に努め、連携体と共に社会課題を解決していく企業に成長発展していきます。

その実践のためにも、自立した人物（ヒト）を育成していく土壌を育み、環境経営活動を通じて社会に貢献していくために、環境経営方針を定め、全社員で環境経営活動を推進していくものとします。

(1) 環境負荷の低減

- ①二酸化炭素（kg-CO₂）排出量の低減
 - ②水使用量の抑制
 - ③産業廃棄物の法令順守および廃棄物分別推進による廃棄量の削減
- に重点を置き、継続的な環境改善に取り組みます。

(2) 社会貢献活動(CSR)の推進

最適な生産管理・物流管理で環境負荷を低減するとともに、包装改善・簡易包装の推進・通函化推進により、サプライチェーン全体で出る廃棄物の減量に取り組みます。

(3) 環境経営活動の推進

全社員で環境活動意識向上に努めるとともに、環境マネジメントシステムを活用して、経営感覚を身に着けるよう取り組みます。

また、社内だけでなく、生産性向上及び廃棄物の減量に務めるよう、サプライパートナーとの連携を強化していきます。

(4) 環境に関する法規制等を遵守します。

事業活動で発生する産業廃棄物の適正処理に努めます。

令和4年7月25日
ワイルド化成（株） 代表取締役社長
宮崎 耕造

I 事業の概要

1. 事業所名 ワイルド化成株式会社
代表者氏名 代表取締役社長 宮崎 耕造
2. 所在地 〒800-0233 福岡県北九州市小倉南区朽網西 1-6-3
3. 環境管理責任者名 宮崎 耕造
連絡担当者名
連絡先 TEL : 093-474-1211 FAX : 093-474-1113
Eメールアドレス contact@wildkasei.com
4. 事業の内容 事業活動：住設部品の卸販売
※住設部品とは、水栓金具、電気温水器、手すり・福祉機器等
5. 事業の規模

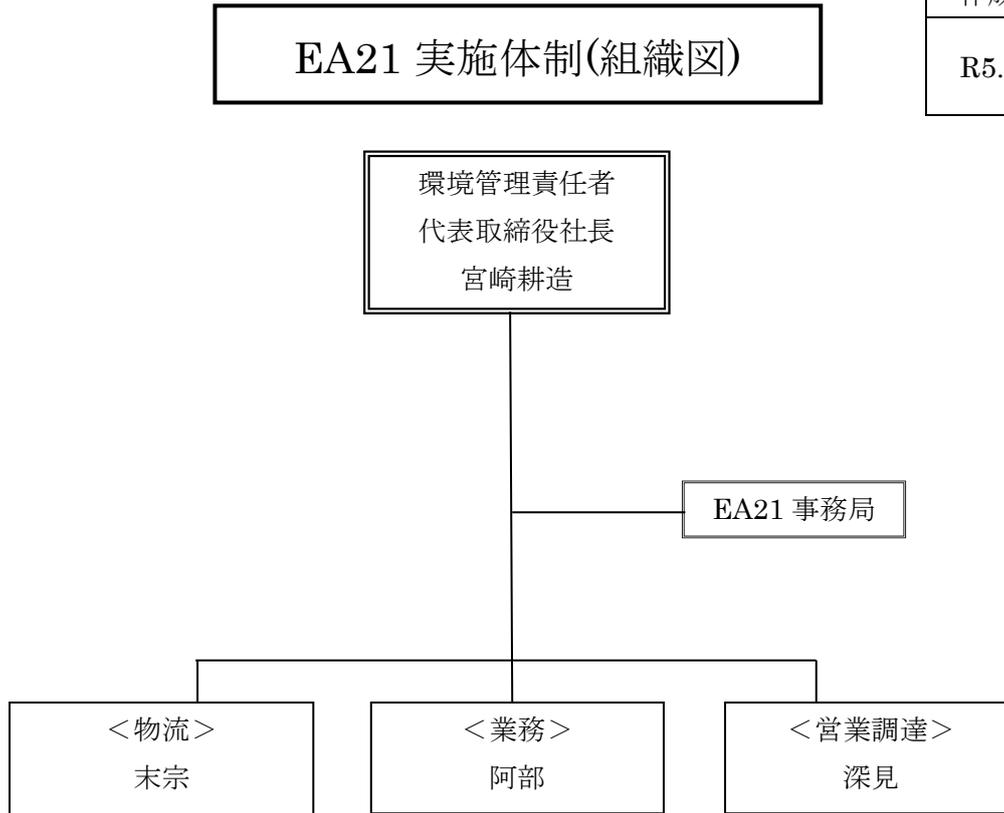
	単位	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
期間		H30.8~R1.7	R1.8~R2.7	R2.8~R3.7	R3.8~R4.7	R4.8~R5.7	R5.8~R6.7
売上高	百万円	538	601	587	628	649	652
従業員	人	22	23	23	23	22	23
床面積	m ²	956.37	956.37	956.37	956.37	956.37	1086.58

S63年9月 片野新町にて創業
H23年5月 木山ビル107号69m²
木山ビル108号49m²を借用する
H24年5月 新事務所に移転する
事務所延面積201.88m²
作業所・倉庫延面積665.78m²
R6年2月 現在地に増築 2階建て新棟206.32m²+平屋建て工務棟12.6m²
外部テナント賃貸(くさみー木ビル)88.71m² 解約

6. 事業年度 8月1日～翌年7月31日
7. 認証・登録範囲 本社および全事業活動
認証・登録番号 0000361

II 組織図及び認証・登録範囲（認証・登録範囲は以下の通り）

作成日	作成者
R5.1.6	宮崎



<役割分担表>

氏名	所属	役割・責任・権限・使命
宮崎耕造	環境管理責任者 代表取締役社長	全体の統括、環境方針の設定、全体の評価と見直し EA 活動に必要な指示を行う。 全体の把握/環境経営システムを構築・運用する
	EA21 委員会 (月次経営会議)	四半期振り返りの結果を3か月に1回 月次経営会議の際に行い、環境経営目標の達成状況及び活動計画の実行状況 PDCA サイクルを回す。
	EA21 事務局	EA21 文書及び記録類の作成・維持・管理 毎月の電気・水道などの使用量・廃棄物処理量の把握と記録の管理 産業廃棄物マニフェストの管理
	事務	毎月の電力・水・廃棄物（使用料・処理費用）の記録 事務所 5S 活動推進による探す手間の削減、 購入備品のムダの削減（コスト削減） 顧客向け商品の適正な在庫管理
	業務	5S 活動による業務改善（3M の排除）・生産性の向上 過剰在庫・不良品（廃棄物）の削減、通函化・簡易包装の推進 廃棄物のリデュース・リユース・リサイクル推進
	調達・配送	車燃料（ガソリン・軽油）消費量削減、エコドライブ推進、 配送ルート効率化、配送のムダの撲滅 配送車の毎日の洗車（節水）

※認証登録範囲は全社です

Ⅲ R5 年度環境経営目標及び中期環境経営目標

1) 令和 5 年度の期間中（令和 6 年 2 月）に増築を予定しているため、既存建屋（事務所棟・倉庫棟）に加えて、新棟（増築棟）の電気使用量も考慮が必要だが、増築の影響で電灯・電力使用量の増加は予測できないため、令和 4 年度までの目標設定と同じで計画を立てることとした。

2) 水使用量については、令和 4 年度で取り組んだことを引き続き継続して、同様の水準で推移することとする。

3) 廃棄物の削減については、売上の増大で廃棄物量が増える傾向だったが、実際は売上金額ではなく出荷数量に連動して、廃棄物量は増減するため、令和 6 年度から出荷数量に応じた形での削減目標を設定するため、令和 5 年度から出荷数量の把握を行う。同時に、令和 6 年度以降は、出荷に応じた商品仕入を行い、適切な在庫管理することを経営計画・目標で定める。

R5年度以降の目標

№	環境目標	単位	R4年度 (基準年度)	R5年度		R6年度		R7年度		備考
			R4.8~ R5.7	R5.8~ R6.7	趨勢比	R5.8~ R6.7	趨勢比	R6.8~ R7.7	趨勢比	
	売上目標	円	648,691,620	665,000,000	102.5%	700,000,000	107.9%	730,000,000	112.5%	削減目標
1	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO2	32,769	33,263	101.5%	35,012	106.8%	36,512	111.4%	売上目標に応じた設定値から毎年1%削減
①	電灯使用量の削減	kWh	19,338	19,626	101.5%	20,659	106.8%	21,544	111.4%	売上目標に応じた設定値から毎年1%削減
②	電力使用量の削減	kWh	11,636	11,809	101.5%	12,431	106.8%	12,964	111.4%	売上目標に応じた設定値から毎年1%削減
③	ガソリン使用量の削減	L	3,828	3,885	101.5%	4,089	106.8%	4,265	111.4%	売上目標に応じた設定値から毎年1%削減
④	軽油使用量の削減	L	3,482	3,534	101.5%	3,720	106.8%	3,879	111.4%	売上目標に応じた設定値から毎年1%削減
⑤	LPG使用量の削減	kg	7.9	10	127.1%	10	127.1%	10	127.1%	維持（R2~R4年平均）
⑥	外注輸送費の削減	円	7,660,673	8,370,000	109.3%	8,720,000	113.8%	9,000,000	117.5%	
2	水使用量の削減	m ³	130	137	105.4%	137	105.4%	137	105.4%	維持（R2~R4年平均）
3	廃棄物の削減									
①	一般廃棄物（中間処理）の削減	kg	1,185	1,203	101.5%	1,266	106.8%	1,320	111.4%	売上目標に応じた設定値から毎年1%削減
②	紙資源ごみ（再生処理）の削減	kg	6,160	6,252	101.5%	6,581	106.8%	6,863	111.4%	売上目標に応じた設定値から毎年1%削減
③	廃プラスチック（産廃処理）の削減	kg	660	670	101.5%	705	106.8%	735	111.4%	売上目標に応じた設定値から毎年1%削減
4	5S活動（品質改善活動）の推進									
①	品質改善活動QC workshop振り返り	回	12	12		12		12		毎月1回
②	毎月の3S（整理・整頓・清掃）活動	回	12	12		12		12		毎月1回

注記：二酸化炭素排出量の計算に使用した購入電力の排出係数は、九州電力㈱の平成 28 年度係数 0.483 を使用している。

社内での化学物質は使用が無いため、削減目標には掲げていない。

IV R5 年度 環境経営計画

令和4年度の環境経営計画を元に、より実行度を見えるように行動計画を具体化して、環境負荷の低減及び生産性の向上で業績向上につなげます。

令和4年度未達成項目(ガソリン使用量の削減)の強化を図ります。

1. 二酸化炭素排出量削減の為の取り組み目標と方法

1) 電気使用量の削減

- ・節電意識の向上
- ・昼休み及び不使用時の照明消灯の励行
- ・事務所 室温(夏 26℃ 冬 20℃) エアコン運転温度の設定
- ・作業場 室温(夏 25℃ 冬 20℃) エアコン運転温度の設定
- ・クールビズ(5月～9月)、ウォームビズの励行(11月～3月)
- ・定時時間での終業
- ・3ヶ月ごとのエアコンフィルター清掃
- ・未使用部屋・電気消灯・エアコンストップの管理
- ・週末・長期休暇前にコンセントを抜く

2) ガソリン・軽油の使用量削減

- ・エコドライブ実践、アイドリングストップ励行
- ・配送ルート効率化
- ・エコカーへの乗り換え(ハイエース⇒ハイブリットカー)

3) LPG 使用量の削減

- ・夏季(4月～10月)のガス元栓を閉める

2. 総排水量の削減

- ・節水意識の向上
- ・社用車・フォークリフトの清掃はバケツに汲み置きの水で行う
- ・手洗い時、止水励行

3. 廃棄物の削減

- ・一般廃棄物の削減
資源ごみの分別による一般廃棄物の削減
- ・紙廃棄物の削減
購入品の簡易包装化
紙資材(段ボール・緩衝材)のリユース
会議資料などの電子化・ペーパーレス化
紙印刷物の不良在庫削減(適正な在庫管理)
- ・通函化による包装資材削減
- ・購入品の納入荷姿の改善
- ・塗装品修正数量の削減
- ・産業廃棄物(廃プラスチック)の削減
- ・産業廃棄物廃棄量の実績把握、マニフェストの管理・保管

4. 5S 活動の推進

- ・5S 活動(品質改善活動)
- ・全社での5S 活動(整理・整頓)

5. 外注輸送費の削減(重点管理)

- ・宅配便(小倉運送・ヤマト運輸)の小口まとめ発送
- ・外注輸送熊本便積載効率アップ 年10回減便

6. 環境関連法規の順守

- ・フロン排出抑制法に従い定期的なエアコン点検の実施

7. BCP 防災訓練の実施(9月～11月)

1. 二酸化炭素排出量の削減

No.	取り組み項目	No.	活動項目	担当者
1	電気使用量の削減	①	節電意識の向上（表示・掲示物）	大塚
		②	昼休み及び不使用時 の照明消灯の励行	大塚 阿部
		③	事務所 室温（夏26℃、冬20℃） エアコン運転温度の設定	井上
		④	作業場 室温（夏25℃、冬20℃） エアコン運転温度の設定	阿部
		⑤	クールビズ推奨 5～10月、ウォームビズ推奨 11月～3月	大塚
		⑥	定時時間内での終業	大塚
		⑦	3か月ごとのエアコンフィルター清掃	阿部
		⑧	未使用部屋・電気消灯・エアコンストップの管理	阿部
		⑨	帰宅時に消灯・電源OFF確認	大塚 阿部
		⑩	週末・長期休暇前に コンセント抜く	大塚 阿部
2	ガソリン・軽油使用量の削減	①	エコドライブの実践、アイドリングストップ励行	末宗
		②	配送ルート効率化	末宗
3	LPG使用量の削減	①	夏季（4月～10月）のガス元栓を閉める	大塚
4	外注輸送費の削減	①	宅配便（小倉運送・ヤマト運輸）の小口まとめ発送	阿部
		②	外注輸送熊本便積載効率アップ 年10回減便	末宗

2. 水使用量の削減

No.	取り組み項目	No.	活動項目	担当者
1	節水活動	①	節水意識の向上	井上
		②	社用車・フォークリフトの清掃はバケツに汲み置きの水で行う	柳田
		③	手洗い時、止水励行	井上
		④	トイレ（小・大）使い分け	井上
		⑤	トイレ擬音装置（音姫）使用	井上

3. 廃棄物の削減

No.	取り組み項目	No.	活動項目	担当者
1	紙廃棄削減	①	購入品の簡易包装化	阿部
		②	紙資材（段ボール・緩衝材）のリユース	阿部
		③	会議資料などの電子化、ペーパーレス化	深見
		④	紙印刷物の不良在庫削減（適正な在庫管理）	阿部
2	一般廃棄物の削減	①	資源ごみの分別による一般廃棄物の削減	大塚
3	通函化推進	①	通函化により包装資材削減	安永
4	プラスチックごみの削減	①	緩衝材としての再利用（リユース）	阿部
5	塗装品修正数量の削減	①	生地品の品質向上による塗装修正削減	日野
6	産業廃棄物の削減	①	プラスチック類の廃棄物削減	末宗

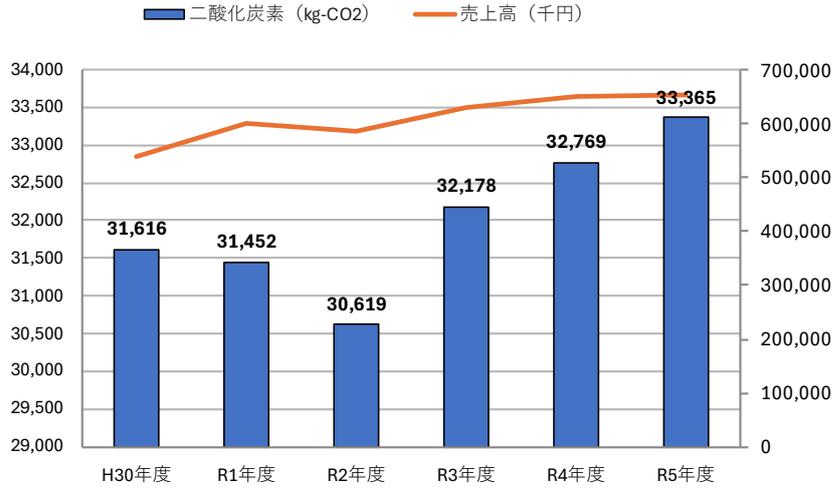
V 環境経営目標の実績と達成率

環境目標項目	年度	R4年度計	R5年度計
	期間	R4.8~R5.7	R5.8~R6.7
1) 二酸化炭素排出量 (目標1%削減) (単位: kg-CO2)	目標	33,251	33,263
	実績	32,769	33,365
	目標達成率%	101%	99.7%
1-①) 電灯使用量の削減 (目標1%削減)	目標	19,598	19,626
	実績	19,338	20,779
	目標達成率%	101%	94.5%
1-②) 電力使用量の削減	目標	12,410	11,809
	実績	11,636	13,787
	目標達成率%	107%	85.7%
1-③) ガソリン使用量の削減	目標	3,272	3,885
	実績	3,828	3,363
	目標達成率%	85%	115.5%
1-④) 軽油使用量の削減	目標	3,956	3,534
	実績	3,482	3,453
	目標達成率%	114%	102.3%
1-⑤) LPG使用量の削減	目標	11	10
	実績	8	5
	目標達成率%	142%	193.2%
1-⑥) 外注輸送費の削減	目標	¥ 8,000,000	¥ 8,370,000
	実績	¥ 7,660,673	¥ 8,383,992
	目標達成率%	104%	99.8%
2) 水使用量の削減 (単位: m ³)	目標	146	137
	実績	130	118
	目標達成率%	112%	116.1%
3-①) 一般廃棄物の削減 (単位: kg) (目標1%削減)	目標	1,328	1,203
	実績	1,185	1,220
	目標達成率%	112.1%	98.6%
3-②) 紙廃棄物 (古紙) の削減 (単位: kg) (目標1%削減)	目標	6,376	6,252
	実績	6,160	4,370
	目標達成率%	103.5%	143.1%
3-③) 廃プラスチック 産業廃棄物の削減 (単位: kg)	目標	661	670
	実績	660	510
	目標達成率%	100.2%	131.3%
4-②) 5S活動 (品質改善活動) 毎月の3S (整理・整頓・清掃) 活動 (単位: 回)	目標	12	12
	実績	12	12
	目標達成率%	100%	100%

注記: 二酸化炭素排出量の計算に使用した購入電力の排出係数は、九州電力㈱の平成28年度調整後排出係数 0.483 kg-CO2/kWh を使用した。

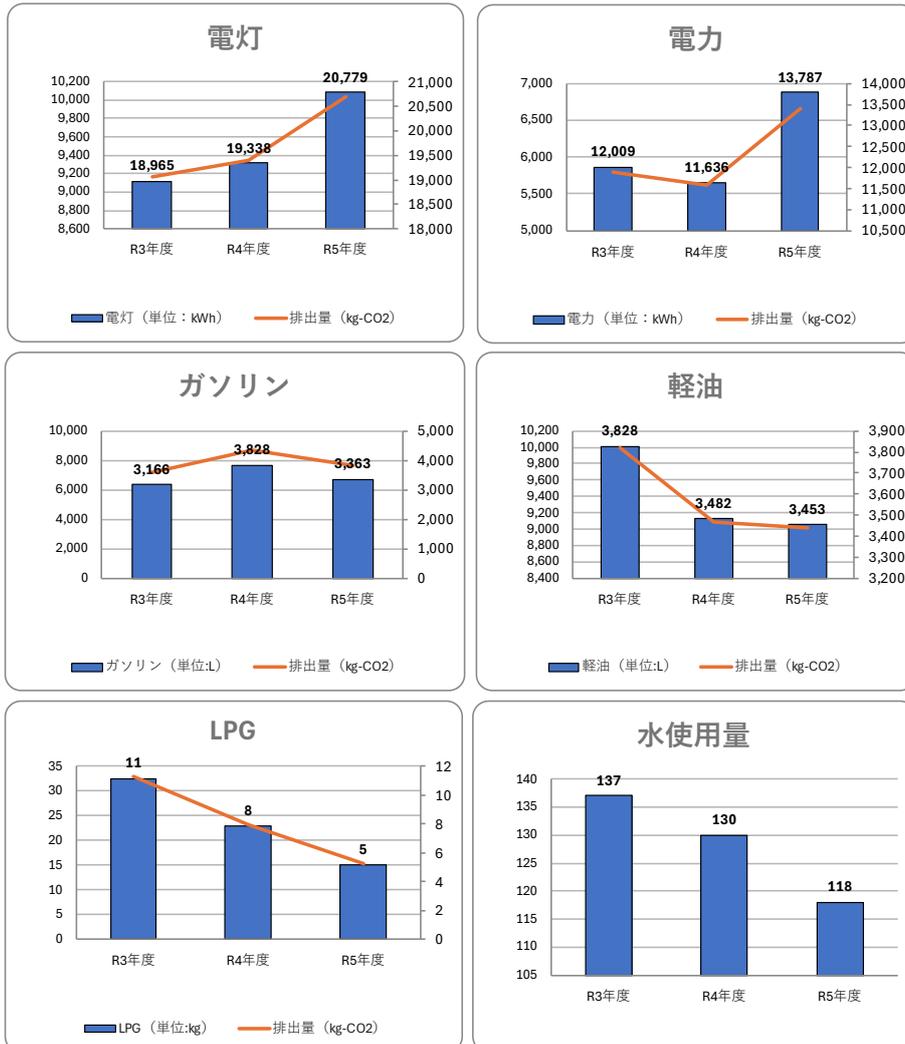
<売上高と二酸化炭素排出量の推移（H30年～R5年）>

売上高と二酸化炭素排出量の推移

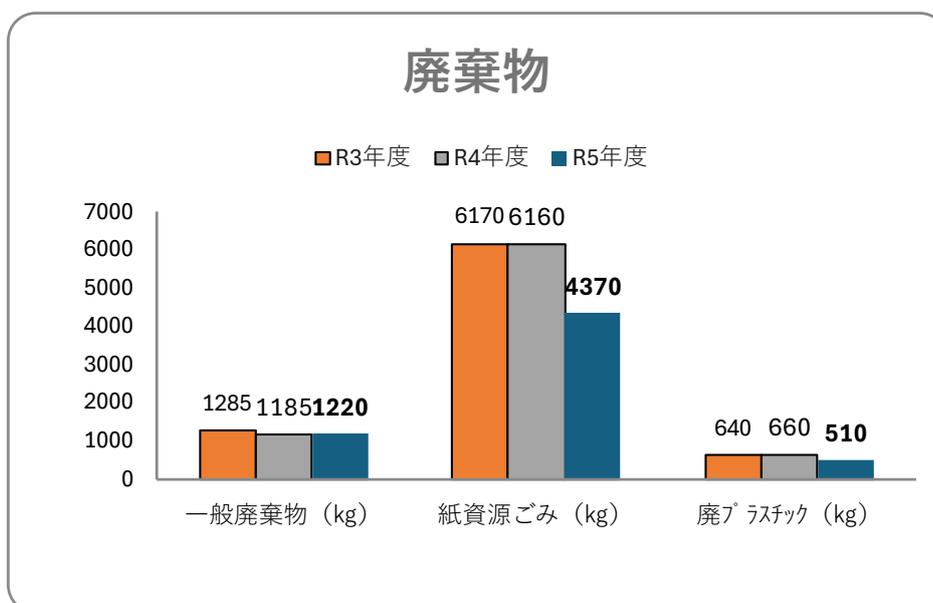


	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
二酸化炭素(kg-CO2)	31,616	31,452	30,619	32,178	32,769	33,365
売上高(千円)	538,363	601,117	586,844	628,317	648,691	652,203

<環境目標ごとの推移（R3年～R5年）>



< 廃棄物の推移 (R3年～R5年) >



<実績・達成率評価>

令和6年2月に増築したことにより、3月以降の電灯・電力使用量が増えて、電灯・電力の削減目標は未達に終わった（電灯 前年対比 6%増、電気 前年対比 24%増）。特に、増築に伴い電力（動力）のエアコンが4機追加になったことで、大幅な電力の増加になっている（目標未達 94.5%）。ただし旧棟（倉庫棟）と比べると、新棟は断熱材が入っているため、冷暖房のエネルギー効率は良い。また、電力（動力）使用量が増えた要因として、令和5年6月以降の酷暑によりエアコン使用が増えたことが要因と考えられる（目標未達 85.7%）。電灯については、新棟の照明を全てLED電灯のため、大幅は上昇にはならなかった。

化石燃料（ガソリン、軽油、LPG）については、一部福岡県外への営業先が増えたが、営業活動の範囲は大きく変わらなかったため、令和4年度の新規事業（研磨事業）立ち上げのために、県外出張が増えてガソリン使用量が増えた時点からは下がっている。

全体の結果として、二酸化炭素排出量は、わずかに目標未達（99.7%）の結果となった。

その他の指標については、外注輸送費については、令和6年4月からの（物流の2024年問題）の影響で運賃価格改定があったため、出荷数量はほぼ横ばいだが、運賃価格改定の結果として、目標未達（98.5%）の結果となった。ただし、まとめ同梱出荷など現場の地道な努力で、未達幅も小さく収められた。

水使用量の減少（目標達成 124%）については、令和4年度同様、駐車場・車両清掃時の地道な努力および、電解水生成装置を廃棄したことで、清掃時に水利用していたものが減ったことで、大幅な削減ができた。

廃棄物削減の指標については、一般廃棄物は目標未達（98.5%）の結果だが、紙資源ごみの削減については、不良在庫を令和4年度までに削減できていたことおよび、出荷に合わせて商品仕入ロットを見直したことで一定の結果につながったと思われるが、大幅な削減ができた要因としては、一部商品の受注が落ちたことでの段ボール梱包資材の廃棄量が減少した（目標達成 143.1%）。

VI R5年度 取組実績

1. 二酸化炭素排出量の削減

No.	取り組み項目	No.	活動項目	担当者	評価
1	電気使用量の削減	①	節電意識の向上（表示・掲示物）	大塚	○
		②	昼休み及び不使用時 の照明消灯の励行	大塚 阿部	○
		③	事務所 室温（夏26℃、冬18℃） エアコン運転温度の設定	井上	×
		④	作業場 室温（夏25℃、冬18℃） エアコン運転温度の設定	阿部	×
		⑤	クールビズ推奨 5～9月、ウォームビズ推奨 11月～3月	大塚	○
		⑥	定時時間内での終業	大塚	×
		⑦	エアコンフィルター清掃	阿部	○
		⑧	未使用部屋・電気消灯・エアコンストップの管理	阿部	○
		⑨	帰宅時に消灯・電源OFF確認	大塚 阿部	○
		⑩	週末・長期休暇前に コンセント抜く	大塚 阿部	○
2	ガソリン・軽油使用量の削減	①	エコドライブの実践、アイドリングストップ励行	末宗	◎
		②	配送ルート効率化	末宗	◎
3	LPG使用量の削減	①	夏季（4月～10月）のガス元栓を閉める	大塚	◎
4	外注輸送費の削減	①	宅配便（小倉運送・ヤマト運輸）の小口まとめ発送	阿部	◎
		②	外注輸送熊本便積載効率アップ 年10回減便	末宗	◎

2. 水使用量の削減

No.	取り組み項目	No.	活動項目	担当者	評価
1	節水活動	①	節水意識の向上	井上	◎
		②	社用車・フォークリフトの清掃はバケツに汲み置きの水で行う	柳田	○
		③	手洗い時、止水励行	井上	○
		④	トイレ（小・大）使い分け	井上	○
		⑤	トイレ擬音装置（音姫）使用	井上	○

3. 廃棄物の削減

No.	取り組み項目	No.	活動項目	担当者	評価
1	紙廃棄削減	①	購入品の簡易包装化	阿部	△
		②	紙資材（段ボール・緩衝材）のリユース	末宗	◎
		③	会議資料などの電子化、ペーパーレス化	深見	△
		④	紙印刷物の不良在庫削減（適正な在庫管理）	阿部	○
2	一般廃棄物の削減	①	資源ごみの分別による一般廃棄物の削減	大塚	○
3	通函化推進	①	通函化により包装資材削減	安永	△
4	プラスチックごみの削減	①	緩衝材としての再利用（リユース）	阿部	○
5	塗装品修正数量の削減	①	生地品の品質向上による塗装修正削減	日野	○
6	産業廃棄物の削減	①	プラスチック類の廃棄物削減	末宗	○

◎：優秀 ○：良好 △：もう少し努力要 ×：努力要

VII 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

<環境経営目標>

1) 二酸化炭素排出量

令和4年度に続き、令和5年度も、電気代・燃料代・エネルギーの高騰が続いており、環境負荷だけでなく経営上も、電気使用量・化石燃料の削減の必要性が高まっている。ただし、令和6年2月に増築により事業規模が拡大したため、令和6年度については、大きな削減の計画・目標設定ではなく、増築による電気・電灯使用量の実績把握を行うこととする。

令和5年度までは、削減目標を毎年の売上目標に応じた値を設定していたが、出荷数量に応じた削減目標の方が正しい実態を示すため、令和5年度出荷数量の実績を取ったものから、毎年の経営計画で出荷数量目標を定めて各項目の目標を設定するように変更する（出荷が減れば商品仕入も減り、その製品を生み出すためのエネルギーや配送にかかる燃料も減るというシンプルなロジック）。

国内市場では、人口減少の中で、出荷数量の減少を止めることは難しいため、経営計画では、お客様に付加価値を提供する方針。やみくもに商品を増やすのではなく、粗利益額を多く稼げる商品を増やしていくことで、持続的な成長を描いていくことを目標に掲げている。

令和7年度以降は、太陽光発電による自家発電や、夏季は倉庫内温度が40度を超える旧棟（倉庫棟）の外壁および屋根の断熱塗料施工により、社員が働きやすい環境と持続可能な環境を両立することを計画していく。

2) 水使用量

事業拡大（増築）の影響が図れていないことと、3年連続前年より水使用量を削減できていることから、令和5年度で取り組んだことを引き続き継続して、過去3年の平均使用量を目標設定して、現状の使用量を維持する計画。

3) 廃棄物の削減

二酸化炭素排出量の削減同様、出荷数量に応じた目標設定に変更

また、合わせて令和4年度から取り組んでいる在庫削減により、無駄な商品仕入や改廃時の廃棄物が増えることを見直していくことで廃棄物の削減を進める計画。

4) 5S活動（品質改善活動）については、令和6年度からは環境経営の計画・目標には入れず、経営計画として品質改善活動を行うことに変更する。

R6年度以降の目標

№	環境目標	単位	R5年度			R6年度		R7年度		R8年度		備考 削減目標
			R5.8~ R6.7	R5.8~ R6.7	趨勢比	R6.8~ R7.7	趨勢比	R7.8~ R8.7	趨勢比			
	出荷数量目標	個	10,955,621	10,857,561	99.1%	10,803,273	98.6%	10,749,257	98.1%			
1	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO2	33,365	33,528	100.5%	32,910	98.6%	32,749	98.2%		出荷数量目標に応じた設定値	
①	電灯使用量の削減	kWh	20,779	20,593	99.1%	20,490	98.6%	20,388	98.1%		出荷数量目標に応じた設定値	
②	電力使用量の削減	kWh	13,787	14,602	105.9%	13,597	98.6%	13,528	98.1%		出荷数量目標に応じた設定値	
③	ガソリン使用量の削減	L	3,363	3,332	99.1%	3,316	98.6%	3,300	98.1%		出荷数量目標に応じた設定値	
④	軽油使用量の削減	L	3,453	3,423	99.1%	3,405	98.6%	3,389	98.1%		出荷数量目標に応じた設定値	
⑤	LPG使用量の削減	kg	5.2	8.1	156.5%	8.1	156.5%	8.1	156.5%		維持（R3～R5年平均）	
⑥	外注送料の削減	円	8,383,992	8,370,000	99.8%	8,320,000	99.2%	8,280,000	98.8%		出荷数量目標に応じた設定値	
2	水使用量の削減	m ³	118.0	126.0	106.8%	126.0	106.8%	126.0	106.8%		維持（R3～R5年平均）	
3	廃棄物の削減											
①	一般廃棄物（中間処理）の削減	kg	1,220	1,220	100.0%	1,200	98.4%	1,190	97.5%		出荷数量目標に応じた設定値	
②	紙資源ごみ（再生処理）の削減	kg	4,370	4,330	99.1%	4,310	98.6%	4,290	98.2%		出荷数量目標に応じた設定値	
③	廃プラスチック（産廃処理）の削減	kg	510	506	99.2%	503	98.6%	501	98.2%		出荷数量目標に応じた設定値	

注記：二酸化炭素排出量の計算に使用した購入電力の排出係数は、九州電力㈱の平成28年度係数0.483 kg-CO2/kWhを使用している。

<環境経営計画>

令和5年度の環境経営計画から、目標設定を大きく変更したことと、環境経営に関わる活動計画に絞って、実行度を上げていく。また、エアコン設定温度は、夏季の環境温度の上昇から、活動するうえで現実的なエアコン温度の設定に変更する。

1. 二酸化炭素排出量削減の取り組み目標と方法

1) 電気使用量の削減

- ・節電意識の向上
- ・昼休み及び不使用時の照明消灯の励行
- ・事務所 エアコン運転温度の設定 夏 25°C、冬 23°C
- ・旧棟（倉庫棟） エアコン運転温度の設定 夏 22°C、冬 24°C
- ・新棟（増築棟） エアコン運転温度の設定 夏 24°C、冬 22°C
- ・クールビズ（5月～10月）、ウォームビズの励行（11月～3月）
- ・定時時間での終業
- ・3ヶ月ごとのエアコンフィルター清掃
- ・未使用部屋・電気消灯・エアコンストップの管理
- ・週末・長期休暇前にコンセントを抜く

2) ガソリン・軽油の使用量削減

- ・エコドライブ実践、アイドリングストップ励行
- ・配送ルート効率化

3) LPG 使用量の削減

- ・夏季（4月～10月）のガス元栓を閉める

2. 総排水量の削減

- ・節水意識の向上
- ・社用車・フォークリフトの清掃はバケツに汲み置きの水で行う
- ・手洗い時、止水励行
- ・社内広場の清掃活動時は、バケツの汲み置きの水で行う

3. 廃棄物の削減

- ・一般廃棄物の削減
資源ごみの分別による一般廃棄物の削減
- ・紙廃棄物の削減
購入品の簡易包装化
紙資材（段ボール・緩衝材）のリユース
会議資料などの電子化・ペーパーレス化
紙印刷物の不良在庫削減（適正な在庫管理）
- ・通函化による包装資材削減
- ・産業廃棄物（廃プラスチック）の削減
- ・産業廃棄物廃棄量の実績把握、マニフェストの管理・保管

4. 外注輸送費の削減

- ・宅配便（小倉運送・ヤマト運輸）の小口まとめ発送
- ・外注輸送熊本便積載効率アップ 年10回減便

5. 在庫削減

- ・新規見積時の商品仕入ロット見直し（改廃時の廃棄ロス防止）
- ・出荷量が減っている商品の商品仕入ロット見直し

6. 環境関連法規の順守

- ・フロン排出抑制法に従い定期的なエアコン点検の実施

7. BCP 防災訓練の実施（9月～11月）

VIII 環境関連法規等への違反、訴訟等の有無

- ・環境関連法規等の遵守状況をチェックした結果、運用と実績で問題は見られなかった。
- ・関係当局・地域住民からの違反などの指摘はなかった。

確認日	承認者	確認者
R6.7.10		

環境関連法規等の取りまとめ及び遵守状況のチェック結果

法律名等	適用対象 施設、設備、作業等	適用内容、規制基準など	定期的確認	
			遵守状況	判定
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	対象物 事業系一般廃棄物	収集・運搬・処分は許可の受けた一般廃棄物収集・運搬業者並びに一般廃棄物処分業者に委託すること 市町村以外の他人に委託しないこと	7/10 確認	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	対象物 産業廃棄物の種類	<ul style="list-style-type: none"> ・飛散の防止対策を講ずること ・見やすい場所に掲示板を設けること(大きさ:60cm×60cm以上) (表示:保管する廃棄物の種類、管理者、連絡先等) ・事業場の外に保管するときは、予め:都道府県知事に届出すること。 ・非常災害の場合は、保管開始後14日以内に届出すること。 	7/10 確認	○
		<ul style="list-style-type: none"> ・管理票の交付(発行):廃棄物の種類ごと、運搬先ごと ・管理票の記載事項:廃棄物の種類、荷姿、最終処分を行なう所在地など ・交付から90日以内(運搬、処理処分)及び180日以内(最終処分)に管理票の写しが未返却の場合、照合確認とともに知事に届ける。・管理票写しの保管:5年間保存。 	7/10 確認	○
		管理票の交付等の状況の報告。毎年6月30日までに前年度1年間の状況報告。	6/19 管理票の交付確認をした。	○
		<ul style="list-style-type: none"> ・収集運搬業者及び処分業者との書面による委託契約 ・委託契約書には許可書の写しの添付 	委託契約を更新	○
		<ul style="list-style-type: none"> ・委託契約書の保管:5年間保存 	7/10 確認	○
フロン排出抑制法	業務用エアコン、冷凍冷蔵機器の管理者(使用者)	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な場所への設置。設置する環境維持保全を実施。 ・全ての第1種特定製品について簡易点検を3か月に1回以上実施。 ・圧縮機定格出力7.5kW以上～50kW未満は、専門知識者による定期点検を3年に1回以上実施。 ・50kW以上は、専門知識者による定期点検を1年に1回以上実施。 ・点検・修理、冷媒充填・回収等の履歴を記録。廃棄後3年間保管。 ・1000t-CO2以上の漏洩は届出が必要。 	7/10 確認	○

IX 代表者による全体の評価と見直し・指示

令和4年度に続き、令和5年度は、原材料価格高騰による仕入原価アップおよび外注先の人件費・エネルギーコストの価格転嫁に加えて、物価高騰や可処分所得が増えないことによる高額の商品(住宅)が売れない影響から、商品出荷数・受注がさらに落ち込んでいる。その中で、二酸化炭素排出量のサプライチェーン全体での削減も求められている中で、環境負荷の低減という社会的責任を果たすとともに、自社の事業継続を両立させるという難しい局面に立たされていると感じる。

そのため、経営計画の中で、環境経営活動とリンクさせる項目を環境経営活動と同時並行で行う計画にしていたが、限られた人員の中で、業務負荷を減らして生産性向上を高めていくために、令和6年度以降は、環境経営では、二酸化炭素排出量および水・廃棄物の削減に絞ることで、選択と集中で成果を上げる体制に変更する。

また、事業規模の拡大の中で、売上高を迫るのではなく、粗利益額(付加価値額)を高めることに集中するため、売上高に応じて削減目標を設定していたものを、出荷数量に応じた削減目標に変更する。

そのためにも、令和4年度からの在庫削減活動を継続して、商品仕入ロットの見直しや、出荷数量に応じた価格改定を進めて、付加価値額を高めていくことで、次のステップに上がる土台を築いていく。